

モーセ③

□モーセの信仰の手本

今、行け。わたしは、あなたをファラオのもとに遣わす。わたしの民、イスラエルの子らをエジプトから導き出せ。(出エジプト記3:10)

□これまでの振り返り

1. アブラハム契約・・・神は、全人類の中から一人の人、アブラハムを召し出し、彼に3つの約束を与えた。**土地の約束、子孫の約束、祝福の約束**である。神はその約束を確かなものとして、アブラハムと契約を結ばれた。3つの約束のうち、土地と子孫の約束はイスラエル民族だけに対するものであるが、これらを通してアブラハムは復活信仰に導かれた。
2. 3つ目の祝福の約束は、イスラエル民族だけでなく、全人類に関係する。「地のすべての部族は、あなたによって祝福される」。その祝福とは、アブラハムが信じた**復活**である。アブラハムの信仰にならい、神には死者を生かす力があると信じるなら、全人類、だれであっても神から復活の祝福を受け取ることができる。
3. アブラハム契約が必ず成ると信じる信仰は、復活を信じる信仰でもある。この信仰が、アブラハムからイサク、そしてヤコブ、さらにヨセフへと継承された。
4. エジプト寄留・・・ヤコブは、ヨセフの功労によりエジプト王から国賓の待遇を受けて、家族とともに飢饉を避けてエジプトに寄留することになった。神はヤコブに、恐れずエジプトへ行くように命じた。なぜなら、かつて神はアブラハムに、【子孫たちが他国で寄留者となり、400年間、奴隷となる】(創15:13)と預言していたからである。実際、寄留開始から30年でヤコブの子たちは移動の自由を失い、それから40年後にヨセフは死んだ。
5. モーセの両親・・・ヨセフが死んでから280年後、モーセが生まれた。モーセの父はアムラム、母はヨケベデ(出6:20)、彼らはエジプト王によるイスラエル民族迫害の中で、命の危険を冒してモーセを隠した。アブラハム契約の約束に基づき、神が必ずエジプトから救い出してくださると信じ、生まれた子どもに神の使命があることを啓示されたからであった。彼らは信仰によって、エジプト王を恐れない勇気を得たのであった。ここでの信仰の手本の特徴は、信仰による勇気と決断である。
6. モーセ・・・①ではモーセが生まれてから40歳まで、「個人的な信仰」の手本を見た。モーセもまたアブラハム契約を信じる信仰によって、勇気と決断を発揮した。彼は「ファラオの娘の息子」と呼ばれるより、神の民であるイスラエルと苦しみを共にすることを選んだ。②では「神の使命を行う者としての信仰、その一、忍び通す信仰」、40歳から40年間、神の時と神の方法を待ち続けた信仰であった。今回の③では、「その二、**神の時と神の方法を受け取る信仰**」である。

□モーセ③ 神の使命を行う者としての信仰 その二 神の時と神の方法を受け取る信仰

1. モーセの人生 80歳のとき（使7：30～35、初代教会の執事ステパノの弁明）

- (1) 7：30～32 40年たったとき、シナイ山の荒野において、柴の茂みの燃える炎の中で、御使いがモーセに現れました。その光景を見たモーセは驚き、それを見ようとして近寄ったところ、主の御声が聞こえました。「わたしは、あなたの父祖たちの神、アブラハム、イサク、ヤコブの神である。」モーセは震え上がり、あえて見ようとはしませんでした。
- (2) 7：33 すると、主は彼にこう言われました。「あなたの履き物を脱げ。あなたの立っている場所は、聖なる地である。」
- (3) 7：34 「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみを確かに見た。また彼らのうめきを聞いた。だから、彼らを救い出すために下って来たのだ。今、行け。わたしは、あなたをエジプトに遣わす。」
- (4) 7：35 「だれがおまえを、指導者やさばき人として任命したのか」と言って人々が拒んだこのモーセを、神は、柴の茂みの中で彼に現れた御使いの手によって、指導者また解放者として遣わされたのです。

2. モーセ80歳のとき 神が現れてモーセにエジプトに行くよう命じた（出3：7～10）

- (1) 3：1～3 モーセは、ミディヤンの祭司、しゅうとイテロの羊を飼っていた。彼はその群れを荒野の奥まで導いて、神の山ホレブにやって来た。すると主の使いが、柴の茂みのただ中の、燃える炎の中で彼に現れた。彼が見ると、なんと、燃えているのに柴は燃え尽きていなかった。モーセは思った。「近寄って、この大なる光景を見よう。なぜ柴が燃え尽きないのだろう。」
 - 主の使い＝第二位格の神、受肉前のイエス
- (2) 3：4～6 主は、彼が横切って見に来るのをご覧になった。神は柴の茂みの中から彼に「モーセ、モーセ」と呼びかけられた。彼は「はい、ここにおります」と答えた。神は仰せられた。「ここに近づいてはならない。あなたの履き物を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる地である。」さらに仰せられた。「わたしはあなたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは顔を隠した。神を仰ぎ見るのを恐れたからである。
 - 【アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神】＝アブラハム契約の神
- (3) 3：7～10 主は言われた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみを確かに見、追い立てる者たちの前での彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを確かに知っている。わたしが下って来たのは、エジプトの手から彼らを救い出し、その地から、広く良い地、乳と蜜の流れる地に、カナン人、ヒッタイト人、アモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人のいる場所に、彼らを導き上るためである。」

今、見よ、イスラエルの子らの叫びはわたしに届いた。わたしはまた、エジプト人が彼らを虐げている有様を見た。今、行け。わたしは、あなたをファラオのもとに遣わす。わたしの民、イスラエルの子らをエジプトから導き出せ。」

3. モーセの応答（出3：11～4：31）

(1) 3：11～12 モーセは神に言った。「私は、いったい何者なのでしょう。ファラオのもとに行き、イスラエルの子らを導き出さなければならないとは。」

神は仰せられた。「わたしがあなたとともにいる。これが、あなたのためのしるしである。このわたしがあなたを遣わすのだ。あなたがこの民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で神に仕えなければならない。」

(2) 3：13～14 モーセは神に言った。「今、私がイスラエルの子らのところに行き、『あなたがたの父祖の神が、あなたがたのもとに私を遣わされた』と言えば、彼らは『その名は何か』と私に聞くでしょう。私は彼らに何と答えればよいのでしょうか。」神はモーセに仰せられた。「わたしは『わたしはある』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエルの子らに、こう言わなければならない。『わたしはある』という方が私をあなたがたのところへ遣わされた、と。」

➤ 3：15～22では、エジプトを出てからの行先、出国する際の状況を予告

(3) 4：1～2 モーセは答えた。「ですが、彼らは私の言うことを信じず、私の声に耳を傾けないでしょう。むしろ、『主はあなたに現れなかった』と言うでしょう。」主は彼に言われた。「あなたが手に持っているものは何か。」彼は答えた。「杖です。」

➤ 4：3～9では、民に見せるための3つのしるしを約束された

(4) 4：10 モーセは主に言った。「ああ、わが主よ。私はことばの人ではありません。以前からそうでしたし、あなたがしもべに語られてからもそうです。私は口が重く、舌が重いのです。」

➤ 4：13では「どうかほかの人を遣わしてください」とまでモーセが答えたので、4：14、主の怒りがモーセに向かって燃え上がったが、主はモーセに譲歩してくださり、モーセと共に3歳年上の兄のアロンを用いること、そして彼にモーセに代わって語る役割を与える、と約束された

□モーセは40歳までの間に、エジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、ことばにも行いにも力があつた（使徒7：22）。また40歳のときには、自分の手によって神が同胞に救いを与えようとしておられることを自覚していた（使徒7：25）。そのモーセが、80歳のとき、3.に見るように4回も、自分にはこの任務はできないとも受け取れることを神に言い、5回目にはついに「ほかの人を遣わしてください」とまで言った。モーセは信仰をなくしていたのだろうか？